資料１

平和祈念事業アドバイザリーボード（第３回）議事要旨

１　日　時：平成２２年１２月２日（木）１３：００～１６：００

２　場　所：新宿住友ビル　スカイルーム（４７階）

３　出席者：（委員）

◎ 亀井　昭宏（早稲田大学商学学術院教授）
〇 杉浦　　力（財団法人能率増進研究開発センター理事長）
黒沢　文貴（東京女子大学現代文化学部地域文化学科教授）
田久保忠衛（杏林大学名誉教授）
堀川　末子（弁護士）
水嶋　英治（常磐大学大学院教授）
横堀　裕之（公認会計士）

［敬称略、五十音順。◎は座長、〇は座長代理］

（総務省）
北原　　久　特別基金事業推進室長
佐藤　紀明　企画官

４　議事次第
（１）平和祈念展示資料館視察
（２）平成２２年度業務実績（見込み）及び中期事業計画の提案等
（３）今後の予定

５　議事要旨
（１）平和祈念展示資料館視察

平和祈念展示資料館の運営及び展示の現状等について、委託運営後の変更点等の説明が行われた。

（２）平成２２年度業務実施（見込み）報告及び中期事業計画の提案等

事務局より、資料２及び資料３に基づき、平和祈念事業業務の評価方法等について、説明が行われた。

続けて、平成２２年度事業者より説明後、意見交換等が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

〇　現在までの業務実績や取組状況のプレゼンテーションをうけてみて、「古い車体をオーバーホールしてもらうというのは、このようなことか」と思い、大変感銘を受けた。

○　語り部派遣事業やフォーラム開催などの業務は非常に重要であるが、そこから発信される内容については、偏りがないよう細やかに気を遣う必要がある。

○　資料展示にあたり、一番重要なことは、キャプション等において、歴史的な事実を正しく伝えることである。そのためには、様々な資料を突き合わせてどういうことが起きたのかをきちんと説明する必要がある。

○　資料収集を行っていることをきちんと外に向けて発信することで、展示資料の内容が充実する。

○　実物資料は、立体物（三次元）で撮影してデジタルアーカイヴ化し、インターネットに掲載する努力が必要である。

○　平和祈念事業は国として実施しなければならない事業であり、資料館運営にあたり、入館者数という数値にとらわれる必要はない。フォーラム、巡回展等のアウトリーチ活動の来場者やインターネットのアクセス数等を含め、すべてを交流者数とするなど発想を変えるべき。

○　従来よりも、相当に外に開けており、良い展示をしている資料館になっている。あとは、リピーターを増やすために、展示内容を固定化せず、展示の時期や分野を少しずつかえるなどの工夫が必要。

○　来館者には、例えばそれぞれに自動的に案内アナウンスが流れるイヤホン機器を装着させるなどのシステムを導入するのも良い。

○　都内に限らず、全国の自治体や関係施設等にもポスター掲示やチラシ設置を依頼し、資料館の存在をもっとアピールすべき。それにより、親の世代の来館につなげて行けば、家庭内で労苦を語り継ぐ機会になる。

○　資料館は従来よりも、はるかに入りやすく、展示室も清潔感がある。

○　世界の趨勢から見れば、ガバナンス、マネジメント、オペレーションは、それぞれ３分の１ずつ責任を有する。これを三位一体として更に円滑にするように次年度につなげることを期待する。

（３）今後の予定

事務局より、次回の日程及び議事予定等について、説明が行われた。